

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
Please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

⑬ Int. Cl.⁹

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)2月28日

B 65 D 85/57
43/16

1 0 1

C 7405-3E
8711-3E

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全3頁)

⑮ 考案の名称 ディスク保管用ケース

⑯ 実 願 昭63-108275

⑰ 出 願 昭63(1988)8月19日

⑱ 考 案 者 浅 羽 崇 雄 東京都多摩市諏訪1-71-3-5

⑲ 出 願 人 セザックス株式会社 東京都大田区鶴ノ木2-9-7番地

⑳ 代 理 人 弁理士 武田 賢 市

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 周壁を有する底板上にディスクを底板と平行に収容する容器と、該容器上に周壁を有する蓋板を嵌合するディスク保管用ケースにおいて、容器周壁の一部に該壁の高さ方向に沿った一対の切り込みを設けて、両切り込み間の壁面を容器底板に対して周壁の内外側方向へ屈曲可能とした可動壁とし、該可動壁の内周側下縁から容器底板上に向けて容器内の最下層ディスクを支えるためのディスク押上げ片が延設されていることを特徴とするディスク保管用ケース。
- (2) 可動壁の下縁が該壁の長さ方向に沿った接続縁により容器底板と屈曲可能に接続され、ディスク押上げ片が可動壁の両側の切り込みから容器底板上の表層面に向けて延出された枠形の切り込みによる、底板表層面の一部からなっている請求項1に記載のディスク保管用ケース。
- (3) 可動壁の下縁が該壁の長さ方向に沿った接続縁により容器底板と屈曲可能に接続され、ディスク押上げ片が可動壁の内側下縁から容器底板上に向けて延出された容器底板とは別の舌片状の板からなっている請求項1に記載のディスク保管用ケース。
- (4) 可動壁の下縁が底板とは分離し、ディスク押上げ片が可動壁の両側の切り込みから容器底板

上の表層面に向けて延出された互に交わらない一対の切り込みによる該底板表層面の一部からなっていて、可動壁がディスク押上げ片の切り込み終端部間を結ぶ折れ線を介して底板に対し屈曲可能となっている請求項1に記載のディスク保管用ケース。

図面の簡単な説明

第1図は本考案に係るディスク保管用ケースの一実施例の構成を示す斜視図、該2図は第1図のII-II線における断面図、第3図は同ケースの使用状態を示す断面図、第4図は別の実施例の構成を示す第2図と同じ部分の断面図、第5図は更に別の実施例の構成を示す容器部の平面図、第6図は第5図のVI-VI線における使用状態を示す断面図、第7図は従来のケースの構成を示す斜視図、第8図は第7図に示すケースの施蓋状態における断面図である。

10:板、11:底板、12:容器、13:蓋体、14:折曲げ部、15:ディスク、16:容器周壁、17:段部、18:蓋体周壁、19:周壁切り込み、20:可動壁、21:接続縁、22, 25:ディスク押上げ片、23:底板表層面、24, 26:押上げ片用切り込み、27:折れ線。

FIG. 1

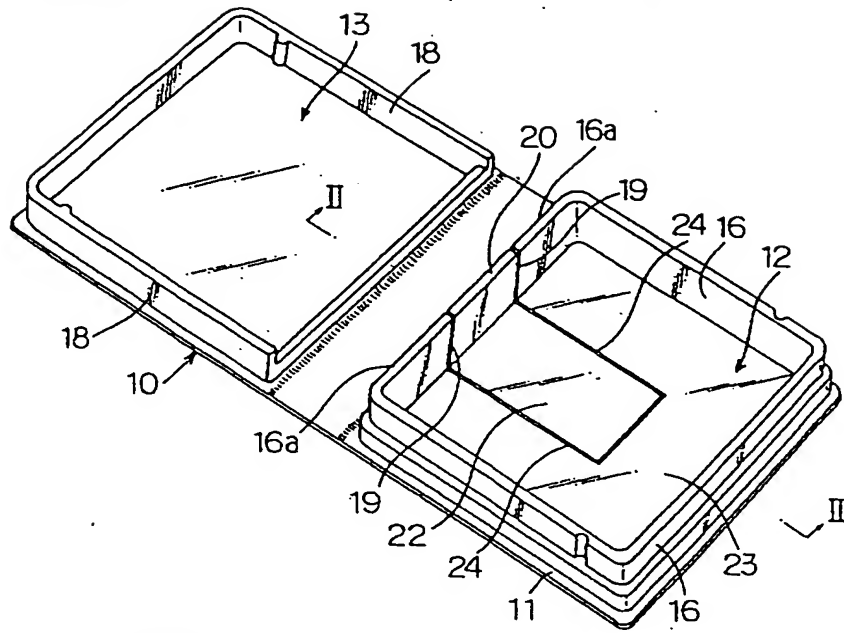


FIG. 2

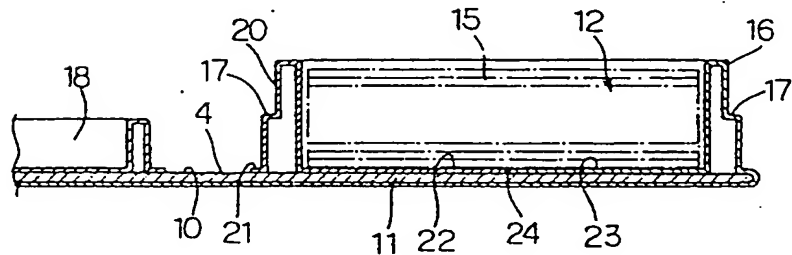


FIG. 3

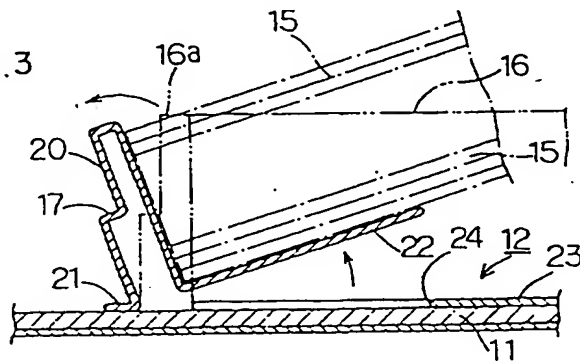


FIG. 4

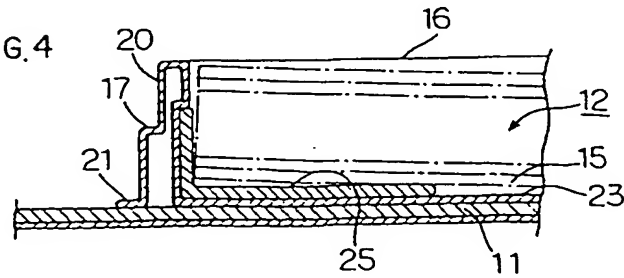


FIG.5

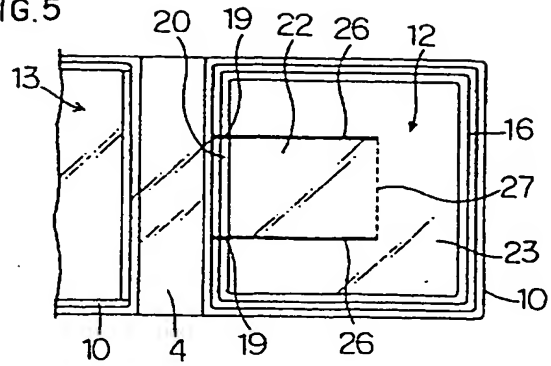


FIG.6

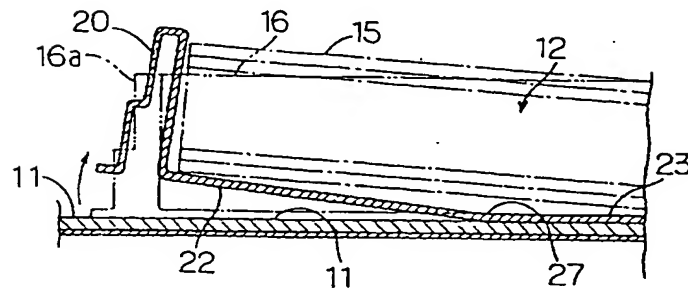


FIG.7

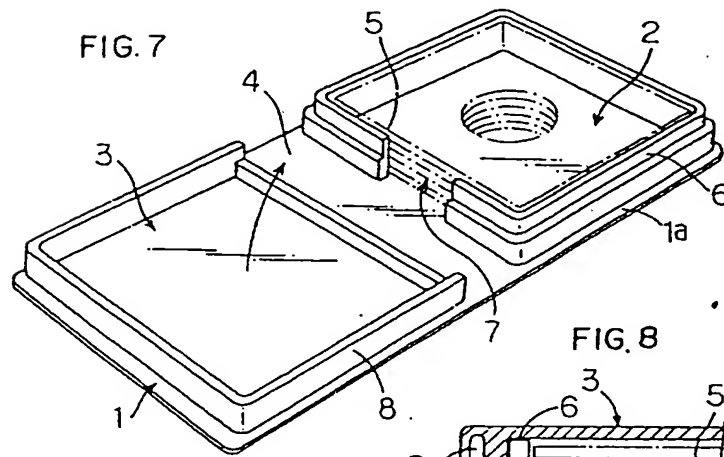
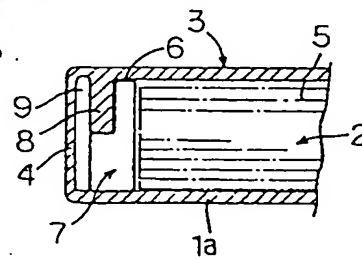


FIG.8



公開実用平成 2—31886

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2—31886

⑬ Int. Cl.³

B 65 D 85/57
43/16

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

C

7405—3E
8711—3E

⑭ 公開 平成 2 年(1990) 2 月 28 日

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ディスク保管用ケース

⑯ 実 願 昭63—108275

⑰ 出 願 昭63(1988) 8 月 19 日

⑱ 考 案 者 浅 羽 崇 雄 東京都多摩市諏訪 1—71—3—5

⑲ 出 願 人 セザックス株式会社 東京都大田区粕ノ木 2—9—7 番地

⑳ 代 理 人 弁理士 武田 賢 市



明 細 書

1. 考案の名称

ディスク保管用ケース

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 周壁を有する底板上にディスクを底板と平行に収容する容器と、該容器上に周壁を有する蓋板を嵌合するディスク保管用ケースにおいて、容器周壁の一部に該壁の高さ方向に沿った一対の切り込みを設けて、両切り込み間の壁面を容器底板に対して周壁の内外側方向へ屈曲可能とした可動壁とし、該可動壁の内周側下縁から容器底板上に向けて容器内の最下層ディスクを支えるためのディスク押上げ片が延設されていることを特徴とするディスク保管用ケース。
- (2) 可動壁の下縁が該壁の長さ方向に沿った接続縁により容器底板と屈曲可能に接続され、ディスク押上げ片が可動壁の両側の切り込みから容器底板上の表層面に向けて延出された枠形の切り込みによる、底板表層面の一部からなっている請求項1に記載のディスク保管用ケース。

1042

(3) 可動壁の下縁が該壁の長さ方向に沿った接縁により容器底板と屈曲可能に接続され、ディスク押上げ片が可動壁の内側下縁から容器底板上に向けて延出された容器底板とは別の舌片状の板からなっている請求項1に記載のディスク保管用ケース。

(4) 可動壁の下縁が底板とは分離し、ディスク押上げ片が可動壁の両側の切り込みから容器底板上の表層面に向けて延出された互に交わらない一対の切り込みによる該底板表層面の一部からなっていて、可動壁がディスク押上げ片の切り込み終端部間を結ぶ折れ線を介して底板に対し屈曲可能となっている請求項1に記載のディスク保管用ケース。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案はフロッピーディスク、CD、光ディスクなどの各種情報記録用ディスクを保管するためのケースの改良に関するものである。

〔従来の技術〕

従来における各種のディスク保管用ケースとしては、第 7 図に示すように、長方形板 1 の両端にディスク 5 を底板 1 a と平行して収容できる容器 2 と蓋体 3 とを設けて、板 1 の中央折曲げ部 4 を折曲げることによって容器 2 上に蓋体 3 を嵌合する形式のディスク保管用ケースが堅牢性と耐磁性とを有するため広く知られている。またこの種のケースにおける容器 2 は、底板 1 a の周囲にディスク 5 を保護するための周壁 6 が設けられているが、蓋体 3 を開いて容器内からディスク 5 を一枚ずつ取り出し易くするために該周壁 6 の一部には切欠き部 7 が設けられている。

(考案が解決すべき課題)


ところでこの種のディスク保管用ケースは、容器 2 に蓋体 3 が嵌合されたとき、容器 2 の周壁 6 と蓋体 3 の周壁 8 とが互に密着し合って外観上は密封性が保持されるようになっているが、容器 2 の周壁 6 における一部にディスク 5 の取出し用切欠き部 7 が設けられているために、第 8 図に示すように、板 1 の中央折曲げ部 4 を折曲げて、容器

2の上に蓋体3を嵌合したときに、折曲げ部4の内側と容器周壁6及び蓋体周壁8との間にできる隙間9から入り込んだ塵埃が容器周壁6における切欠き部7を通して容器底板内に侵入することになり、この切欠き部7によって前記周壁6、8による折角の密封性が完全に損なわれてしまうという欠点を有していた。

(課題を解決するための手段)

本考案は上記のような従来のディスク保管用ケースにおける問題点を解消し、容器と蓋体における周壁が夫々嵌合された状態においては完全な密封性が保持され、しかも容器内からディスクの取出しも容易に行えるようにしたディスク保管用ケースの提供を目的としたものである。

本考案は上記の目的を達成するための具体的手段として、周壁を有する底板上にディスクを底板と平行に収容する容器と、該容器上に周壁を有する蓋板を嵌合するディスク保管用ケースにおいて、容器周壁の一部に該壁の高さ方向に沿った一対の切り込みを設けて、両切り込み間の壁面を容器底



板に対して周壁の内外側方向へ屈曲可能とした可動壁とし、該可動壁の内周側下縁から容器底板上に向けて容器内の最下層ディスクを支えるためのディスク押上げ片が延設されていることを特徴とするものである。

この考案に係るケースでは、周壁の一部に設けられる可動壁が底板に対して周壁の内外側方向へ屈曲し、これに伴って可動壁の内側下縁から容器底板上に向けて延出されたディスク押上げ片が、容器内のディスクを周壁の上縁よりも高く押上げられるようになっていけばよい。そのため可動壁の下端が底板に対して屈曲可能なるように接続されていて、可動壁を周壁の外側方向へ倒すことによってディスク押上げ片が上方に回転してディスクを持ち上げるような構造でもよく、また可動壁の下端は底板と分離していて、可動壁から底板上に延びるディスク押上げ片の先端が底板上に折れ線を介して接続されており、可動壁を周壁の内側上方向へ押上げることによって底板の一部を形成するディスク押上げ片が上方に回転してディスク

を持ち上げるような構造であってもよい。

〔作 用〕

この考案のディスク保管用ケースは、周壁の一部に一对の切り込みによって底板に対して屈曲可能な可動壁を設けるので、周壁が僅かな切り込み線を除いて欠落部なく一連に連続し、従来のような大きな幅をもつディスク取出し用の切欠き部がないため、容器に蓋体が嵌合された状態においても容器としての密封性を良好にすることができる。

また可動壁の内側下縁から容器底板上に向けてディスク押上げ片が延設されているので、可動壁を周壁の外側もしくは内側方向に屈曲することにより、ディスク押上げ片が回動して容器内のディスクの一端を周壁上縁より上方に持ち上げることができ、ディスクを簡単に取出すことができる。

〔実 施 例〕

次にこの考案に係るディスク保管用ケースの実施例を図面により説明すると、第1図は好ましい実施例の構成を示している。このケースは長方形の板10の両端に夫々周壁16をもった容器12

と周壁 1 8 をもった蓋板 1 3 とが設けられており、ディスク 1 5 が平らのまま容器 1 2 内の底板 1 1 上に収容されると共に、板 1 0 が中央折曲げ部 1 4 を境にして折曲げられることによって、蓋板 1 3 が容器 1 2 上に嵌合されるようになっている。

容器 1 2 の周壁 1 6 は外周の上半部が肉薄となるように削られて段部 1 7 が設けられており、この段部 1 7 上に蓋板 1 3 の周壁 1 8 が嵌合されることによって両方の周壁 1 6、1 8 による密封性が保持される。

板 1 0 の中央折曲げ部 1 4 に面した容器 1 2 の周壁 1 6 a には、該壁の高さ方向沿った一対の切り込み 1 9 を周壁 1 6 a の上縁から下縁に向けて切り込み、これらの両切り込み 1 9 の間に壁面を容器 1 2 の底板 1 1 に対して周壁 1 6 a の内外側方向へ屈曲するようにした可動壁 2 0 が設けられている。第 2 図に示すようにこの可動壁 2 0 下端の一部、好ましくは外周側下縁が該壁の長さ方向に沿った接続縁 2 1 を介して底板 1 1 と屈曲可能なるように接続されている。

公開実用平成 2—31886



一方、可動壁 20 の内周側下縁からは、容器底板 11 上に向けて底板 11 上の最下層ディスク 15 を支えるためのディスク押上げ片 22 が延設されている。このディスク押上げ片 22 は底板 11 の表面に被覆された所定の肉厚と硬さをもつ表層面 23 の一部からなっており、そのため容器 12 内のディスク 15 はあくまで底板 11 と平行な状態で収容される。つまり第 2 図に示すように、ディスク押上げ片 22 は、可動壁 20 の内周側下縁と前記底板表層面 23 とが接続されていると共に、第 1 図に示すように可動壁 20 の両切り込み 19 の下端から底板表層面 23 に向けて延出される枠形の切り込み 24 を設け、この枠形切り込み 24 によって表層面 23 の主要体とは切り離れた該表層面 23 の一部によって形成されている。

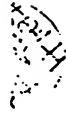
第 3 図のように、容器 12 内に収容したディスク 15 を取出す際は、可動壁 20 を周壁 16 a の外側方向へ屈曲させると、該可動壁 20 の内周側下縁から延出したディスク押上げ片 22 が底板 11 より上方に回動して、ディスク 15 を持ち上げ

ることになるので、ディスク 15 の一端が周壁 16 の上縁よりも上昇し、ディスクの取出しが容易に行える。

第 4 図は別の実施例を示しており、この実施例ではディスク押上げ片として、前記のような底板表層面 23 の一部を利用せず、可動壁 20 の内周側下縁から底板表層面 23 の上面に向けて延出されるように設けた舌片状の板 25 を用いている。

この実施例の場合には、容器 12 の底板 11 上にディスク押上げ片 25 の板厚が介在するだけディスク 15 の下面が底板 11 に対して完全な平行状態とならないが、その板厚は僅かなのでディスクの収容には支障を生じない。この実施例におけるディスクの取出しは、先の実施例における第 3 図の場合と同じように、可動壁 20 を周壁 16 a の外側方向へ屈曲させることにより行われる。

第 5 図及び第 6 図は更に別の実施例による場合を示している。この実施例では、第 6 図に示すように可動壁 20 の下端が底板 11 と実質的に切り離されているが、ディスク押上げ片 22 を形成す



るために該壁の内周側下縁と底板表層面 2 3 とは接続されている。このディスク押上げ片 2 2 は、第 5 図のように可動壁 2 0 の両切り込み 1 9 の下端から底板表層面 2 3 に向けて延出されるように先端が互に交わらない一対の切り込み 2 6 を設けて、これらの切り込み 2 6 の終端部間を折れ線 2 7 により結ぶことよって得られる底板表層面 2 3 の一部からなっている。そのため可動壁 2 0 は、第 6 図のようにディスク押上げ片 2 2 の先端における折れ線 2 7 を介して底板 1 1 に対し周壁 1 6 a の内側方向へ屈曲することによって、ディスク押上げ片 2 2 が上方に回動し、ディスク 1 5 が持ち上げられる。

(効 果)

上記のように本考案に係るディスク保管用ケースにおいては、周壁の一部に一対の切り込みを設けることにより底板に対して屈曲可能な可動壁を設けたので、容器周壁が大きな欠落部を有することなく全周壁が一連に連続し、しかもこの可動壁の内周側下縁から容器内底板上に向けてディスク

押上げ片を延設したので、可動壁を屈曲することによってディスク押上げ片が上方に回動して容器内のディスクを持ち上げることができ、従って開蓋時においてディスクの取出しが容易に行えと共に、施蓋時においては塵埃の侵入を確実に防ぐことのできる密封性の良好なケースとすることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係るディスク保管用ケースの一実施例の構成を示す斜視図、該2図は第1図のⅡ-Ⅱ線における断面図、第3図は同ケースの使用状態を示す断面図、第4図は別の実施例の構成を示す第2図と同じ部分の断面図、第5図は更に別の実施例の構成を示す容器部の平面図、第6図は第5図のⅥ-Ⅵ線における使用状態を示す断面図、第7図は従来のケースの構成を示す斜視図、第8図は第7図に示すケースの施蓋状態における断面図である。

10 : 板、11 : 底板、12 : 容器、13 : 蓋体、

公開実用平成 2—31886



1 4 : 折曲げ部、 1 5 : ディスク、
1 6 : 容器周壁、 1 7 : 段部、 1 8 : 蓋体周壁、
1 9 : 周壁切り込み、 2 0 : 可動壁、
2 1 : 接続縁、 2 2 , 2 5 : ディスク押上げ片、
2 3 : 底板表層面、
2 4 , 2 6 : 押上げ片用切り込み、 2 7 : 折れ線

実用新案登録出願人 セザックス株式会社
代理人 弁理士 武 田 賢



FIG.1

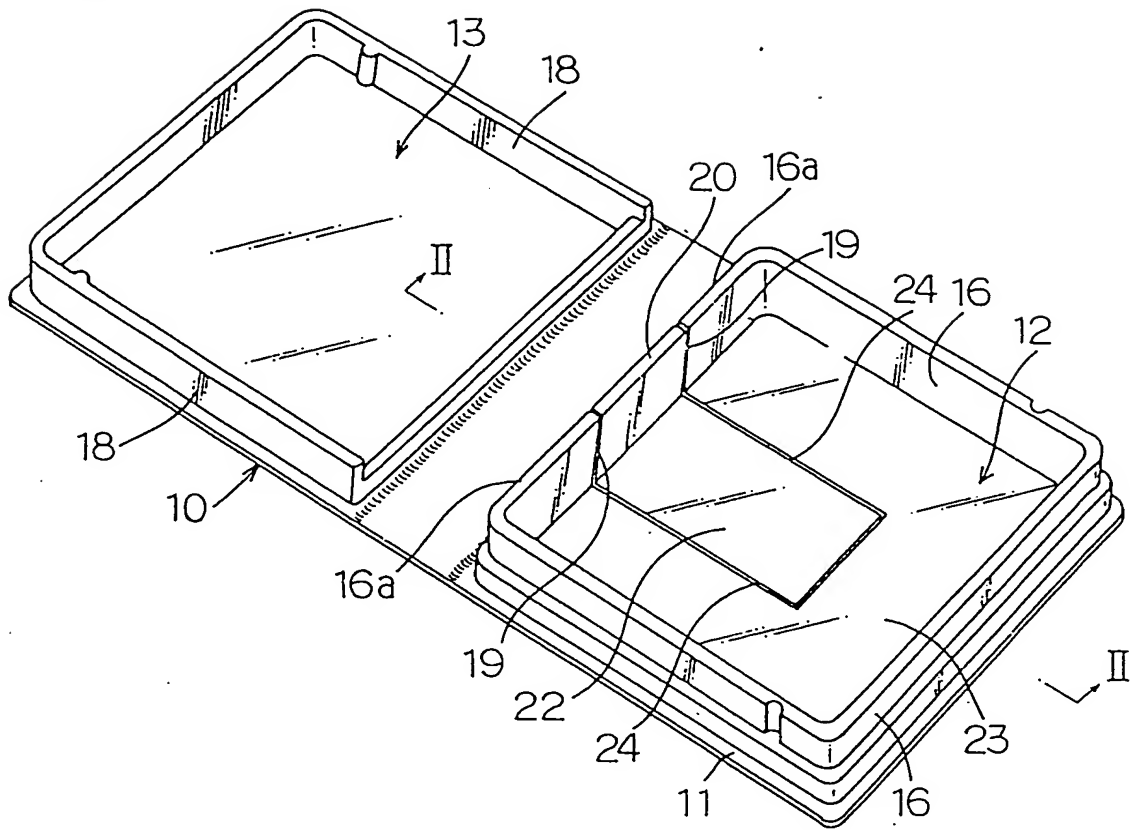
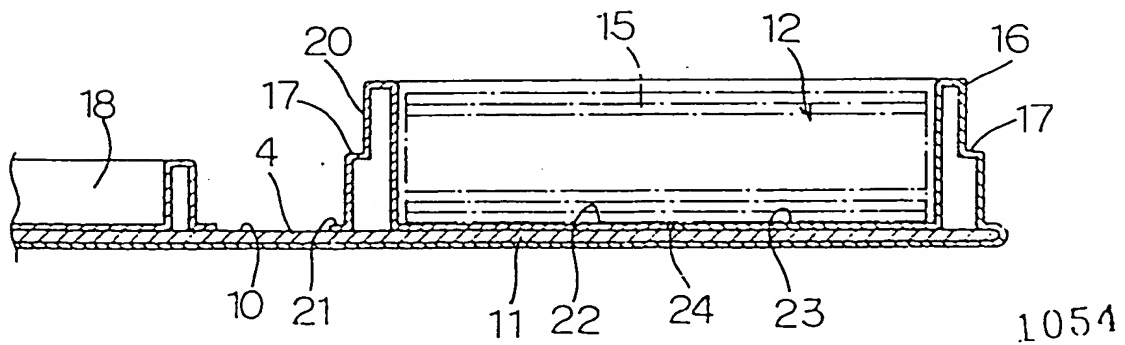


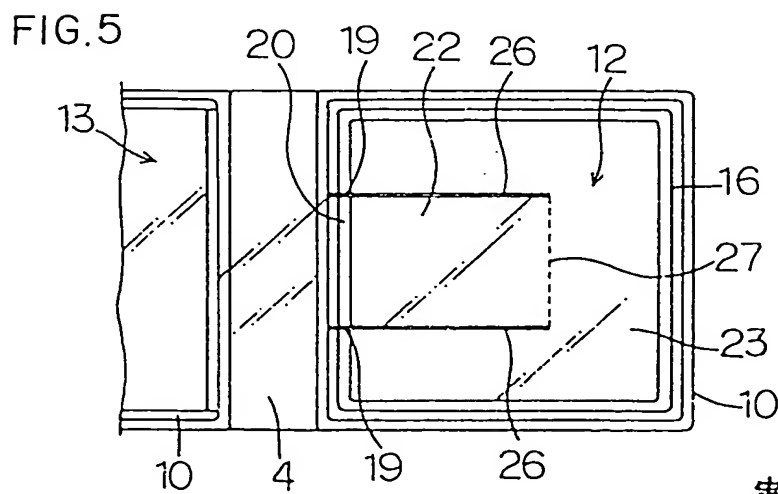
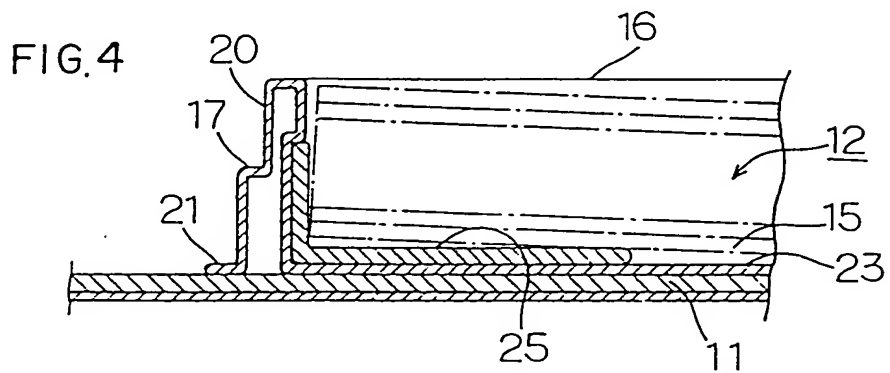
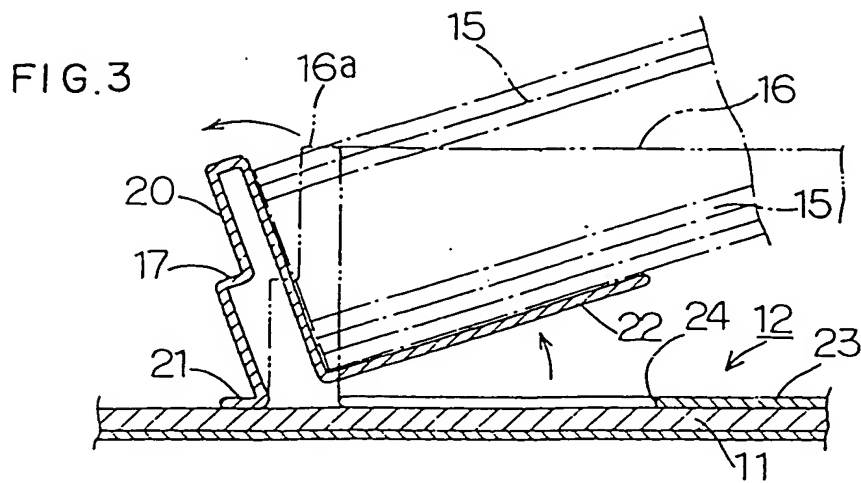
FIG.2



実開2- 31886

代理人 弁理士 武田賢市

公開実用平成 2-31886



1055

実開2- 31886

代理人 弁理士 武田賢市

FIG.6

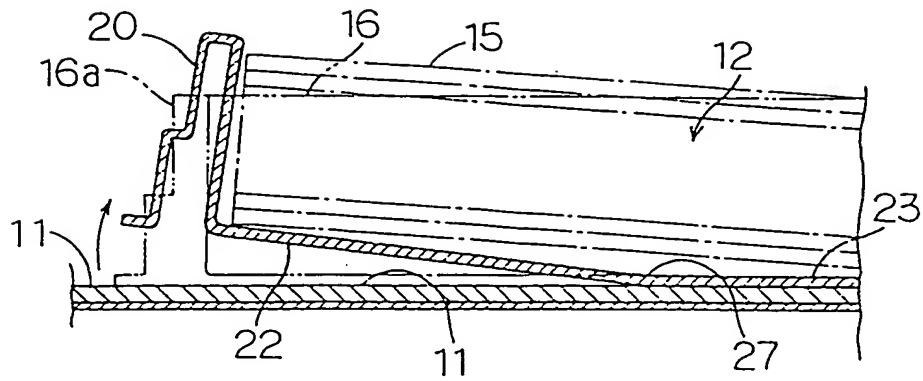


FIG.7

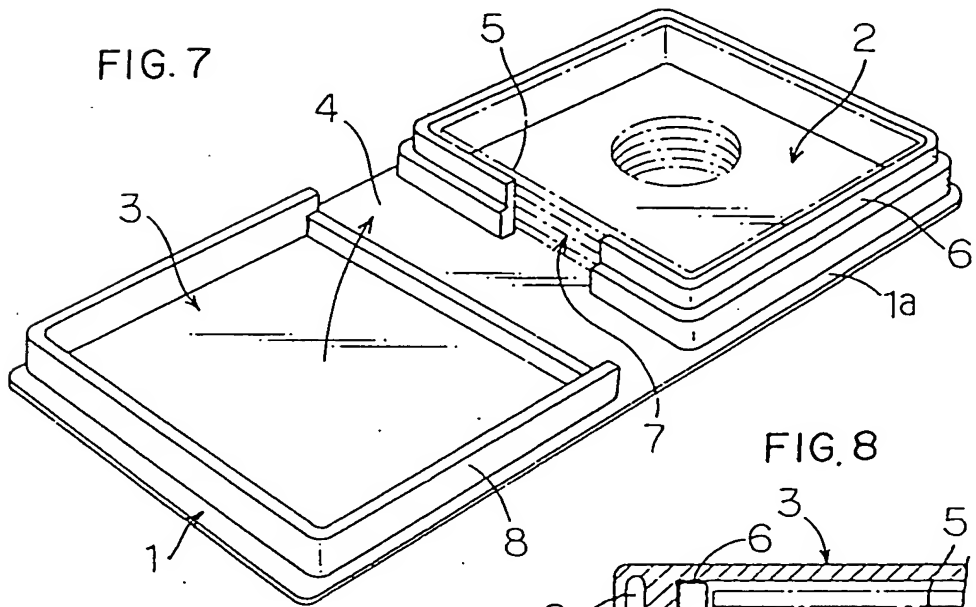


FIG.8

